



# やまゆり

2004年(平成16年)7月発行

日本ボーイスカウト神奈川連盟

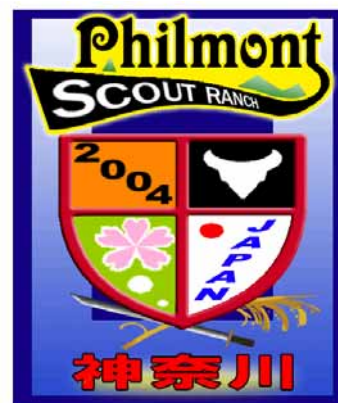
110



平成16年度神奈川連盟

## フィルモント派遣報告

平成16年7月19日～8月8日



神奈川連盟から10名の先鋭なるスカウトと2名のリーダーがクルーとなり、アメリカ連盟のフィルモント・スカウト・ランチへの派遣が実施されました。

アメリカ連盟は3つのハイアドベンチャーコースを運営しているが、私たちが挑戦したニューメキシコ州の「Philmont Scout Ranch」は標高2000m～4500mの山岳地域を12日間100Km以上のバックパッキングする厳しいコースです。

厳しさを自ら乗り越えたときに人は成長する。友を得たときに楽しさと感謝の心を知る。体験から学んだことは忘れない。

この三つを備えているのがフィルモントだ。

(派遣隊長 高森 茂範)

# Go! Scouting

## 神奈川連盟フィルモント派遣報告



### フィルモント派遣隊2004 アドバイサー 高森 茂範

フィルモントの広さは神奈川県とほぼ同じ、その中に100のキャンプ場と50種類のプログラムが用意されている。自然環境は厳しく3000mを超えると気温は0度以下になり、雷や雹が突然おそってくることもある。私たちもMt フィリップス付近でこの洗礼を受けた。自然が豊かなので熊や鹿、ガラガラヘビ(有毒)も生息している。安全のために食糧の管理や行動には十分注意を払う必要があり、テントや炊事用具、食料、衣類も特別に研究されたものを使用する。アメリカのスカウトでもフィルモントに挑戦するには相当な訓練、キャンプ技術と体力がなければ参加することは出来ない。

723R(クルー) 神奈川クルーは半年間に及ぶ準備と訓練。そして野外活動で培ったチームワークでみごとフィルモントのトレールを完走したのだ。クルーアドバイザーとして大切にしたいことはスカウトの自主性を養い、スカウトの個性を伸ばすこと。そしてスカウトが何を目標として挑戦するのか常に問いかけ、体験の中から気づかせることを重視していた。このアドバイスに答えてくれた結果が成功につながったのだ。

フィルモントの体験はスカウトの中に深く刻み込まれて、決して忘れることが出来ないだろう。各地域でフィルモント派遣の経験を生かしてクルーメンバーが活躍を期待している。私はこのクルーに出会えたことを幸運だと思う私自身も貴重な体験を共に出来たことを感謝している。



リーダー

高森 茂範	横浜みなと	横浜第3 4 団
松原 洋	横浜南央	横浜 1 1 5 団

スカウト

田部井 啓	横浜みなと	横浜第114団VS
小谷 来太	江南	平塚第3団VS
横溝 涼	江南	平塚第4団VS
三杉 智也	江南	平塚第5団VS
佐々木 祐輝	江南	二宮第1団VS
椎野 裕太	江南	二宮第1団VS
山室 佑太	江南	二宮第1団VS
可児 智	小田原	小田原第10団VS
石野 隆之	小田原	小田原第10団VS
杉崎 太一	小田原	小田原第2団VS

宝物は「仲間」 二宮第1団 椎野 裕太

サイファーズメインキャンプでケガした右足を引きずりながら、思い出したことは「あきらめない」という全員できめたクルーの約束だった。隊長にダブルバックまでしてもらって、コンサベーションの場所にたどり着いてやっと気付きました。この派遣が決まってからの半年間で、手に入れた一番の宝物が「仲間」であることに。

ちかいとおきて 横浜104団 田部井 啓

僕の心に一番強く残ったのは、レンジャーのマットとの別れと Hidden Valley から見た景色です。一番楽しかったのはクルーのみんなとの何気ない雑談や遊んだこと、共に笑い、共に泣いた事です。僕はこのクルーのメンバーで本当に良かったとつくづく感じました。

「ちかいとおきて」を全て身につけている人がいればそれは完璧な人間だ。そんな人間はいない、というのが僕の考えだった。ところが居た。マットと行動したのは数日間だったし、彼の全てを見たわけでもないが、彼は素晴らしいスカウトだった。彼に会ったことで「ちかいとおきて」がどのようなものであったのかを気付くことができました。



日本時間	USA	行程
日付	時差15	
7月19日	18日	準備日
7月20日	19日	成田 ダラス アルバカーキー
7月21日	20日	休息 時差調整
7月22日	21日	アルバカーキーで観光 事前準備
7月23日	22日	午後からフィルモントへ入り
7月24日	23日	フィルモント 準備
7月25日	24日	トレール出発
↓	↓	↑
8月4日	3日	トレール終了
8月5日	4日	ロスへ移動 ホテルで休息
8月6日	5日	ドジャースタジアム
8月7日	6日	ロス観光 夕方は評価会
8月8日	7日	航空機で日本へ 8日午後成田着

目的を持った活動 小田原第2団 杉崎 太一

今回のフィルモント派遣が成功したのはメンバーの一人一人がフィルモントで何がしたいか、ちゃんと目的と目標を持っていた事だと思います。事前訓練では何回も何回も目的・目標を考え、雨の中自分たちだけでの丹沢移動キャンプ...とても辛い事がありましたが、その度に仲間に励まされ...僕は今回のフィルモント派遣に参加してよかったと思います。

なみだがとまらない 小田原10団 石野 隆之

最後のセレモニーは物語の終わりのようだった。この12日間の重みを感じさせてくれた。夜空を見上げると天の川が見えた。この後のクルーミーティングで話しながら涙が出てしまった...なかなか止まらなかった。あんなに素直に泣けたのは初めてだった...

楽しかった、嬉しかった、感動的だった、過去形だ。今は、なんだか寂しい。心に穴が空いてしまったみたいだ...もう一度、あの景色を見に行きたいと思う。あの12日間は最高だった。



**フィルモントの魔法 二宮第1団 佐々木祐輝**

フィルモントに人々が集まるのには何か理由があるのではないかと。人々を、そして自分を惹いている何かがある。

その何かを知るため・得るために彼らはスタッフとして奉仕に来ていたのかもしれない。たぶんそれが、ガイドブックの一番最初に記述されている『フィルモントの魔法』というものなのではないだろうか。

どうやら自分もその魔法にかかったようだ。いつの日か、あの靴の掛かった門を再びくぐりたいと心に誓いました。

**なかま 平塚第5団 三杉智也**

フィルモントへ辿り着くまでの半年間の訓練は、鍋割山登山、三浦半島移動キャンプ、丹沢縦走、何度もクルー集会と厳しくもあり少し危うい事もあったが、乗り越えたことで自信と力になり、チームワークも高まっていった。私は派遣応募用紙に「自分自身を高めたい」と書いた。体力や読図力といった技能は確実に向上した。

そして派遣を通して、広大な「自然」、心から尊敬する「人」、最高の「仲間」を得て、なんだか成長出来たような気がする。

このクルーの一員としてフィルモントに行けたことを本当に嬉しく思う。

**なぜ友達が必要なのか 小田原10団 可児 智**

僕はヘッドクォーターでアメリカのスカウトに「なぜ友達は必要なのか？」と聞いたが、相手はすぐに、「友達とは幸せをくれるもの」だから必要なんだと言った。

僕たちクルーは出会ってから1年も経っていないが、事前訓練や集会、Philmontでの厳しい旅を共にし、各キャンプ地でスタッフと一緒に過ごし、地平線の広がる景色と一緒に感動する。この経験が僕等の絆をより一層深くし、強いものにしたと思う。いつも信頼できる仲間と囲まれて、本当に楽しい日々を過ごすことができた。



**足りない物を知った私の気づき 平塚3団 小谷 来太**

フィルモントコースを完歩して素直に思ったことは、フィルモントは特別な場所で、そして特別な事では無いということだ。派遣は原隊での活動や派遣隊の事前準備の延長線上にあるもので、普段の活動や事前準備なしでは出来ない。その意味でフィルモントは、何ら特別ではないものだった。この一見相反するフィルモントの二面性は、僕しか感じないかもしれない。しかし、フィルモントという土地の偉大さと、自分の根底となる基礎技能と準備の大切さを、僕は確かに感じた。派遣を通じて色々な面で(人として、スカウトとして、現代人として)自分が足りないと思えたが、それは、今回の派遣の大きな成果であるとも思う。

**フィルモントがくれたもの 平塚4団 横溝 涼**

正直不安だった。けど、5月の丹沢での訓練を思い出すと、そんな不安も消し飛んだし、なにより「このクルーなんだから、何が起きてても平気だ!!」

一番の感動だったのは最終日の前日に石野君の言葉「Tooth of time で朝日を見よう!」ここから始まった。それは距離的には不可能に思えたが、実行され、そして、見事に朝日を見られた。その景色は僕たちのチームワークの結晶に見えた。Philmont 万歳!!!!

**僕が手に入れたもの 二宮第1団 山室 佑太**

素晴らしい『経験、達成、感動』を手に入れることができたのは、クルーのみんなが協力しあって問題を一つ一つ解決してきたことで、このフィルモント派遣を成功させることができたのだと思います。また、この派遣にクルーの一員として参加することができて、《フィルモントの魔法》を理解できた気がします。

隊長を始めとするアドバイザーの方々、クルーのみなさん、その他たくさんのスタッフの方々に感謝し、これからの生活に役立てていけるようにしていきたいと思っています。



## 行事報告

### 県連ベンチャースカウトフォーラム開催 テーマ「へいわ」

スカウティングは「スカウトのための活動」ではなく「スカウトの活動」である。フォーラムの目的はユース年代の考えをスカウティングに生かすことです。

10月23日(土)～24日(日)三浦ふれあいの村で県連ベンチャースカウトフォーラムが開催されました。9地区より31名参加され、ファシリテーター役としてローバースカウト9名も参加し、熱心な議論が展開されました。

二日間のフォーラムでグループごとのアクションプランが採択され、来年度の活動にプロジェクトとして取り入れることが約束されました。そして12月開催の全国スカウトフォーラムへの代表として横浜地区横浜第69団の森田隼人スカウトを選出して終了しました。フォーラムで話し合われたことが各地域の活動に生かされることを願っています。採択文は11月18日開催の理事会にて代表スカウトより読み上げられ、理事長に手渡されました。

採択文およびそのアクションプランについては、次号「やまゆり111号」にて掲載します。



#### <進級状況>

##### 菊スカウト

4月～11月までで69名のスカウトが菊スカウトになりました。

##### 富士スカウト(今年度4名)

江南地区	二宮1団	安藤	洵スカウト
川崎地区	川崎43団	小山	真史スカウト
横浜南中央地区	横浜87団	吉住	重人スカウト
横浜中央地区	横浜98団	工藤	義信スカウト

### 「リーダーが自ら学ぶ姿勢がスカウトを育てる!!」 プロジェクトセミナー開催

二回目の開催になるプロジェクトセミナーが10月3日(日)スカウト会館にて開催され、県内から35名、千葉県から1名の参加者にてグループワークを中心に熱心な討論が行われました。講師は倉田氏(県央地区)、田下氏(小田原地区)をお願いをし、隊長としてのアドバイスの方法やスカウトの考えを引き出してプロジェクトの目的を明確にする手法を実習しました。参加者からのアンケートには「スカウトのモチベーションを高めるには隊長のアドバイスとコミュニケーションが大切」「指導(指摘)ではなく気づかせることの重要性と具体的なアドバイスの方法に気づきました」などとセミナーの目的が達成できたことが伺えました。

参加した指導者の今後の活躍に期待します。



#### JOTI&JOTA開催

10月16日スカウト会館にて今年度JOTI&JOTAが開催されました。県下よりVS10名・BS5名のスカウトが集まり、インターネットや無線を用いて、国内や海外のスカウト仲間とチャットを体験しました。在住のフィンランドRS1名も参加され、有意義な1日でありました。

#### 「スカウトの日」実施報告

9月15日に日本全国で一斉展開された「スカウトの日」。神奈川県下では団ごとに以下のような活動が展開されました。

- カントリー大作戦 81ヶ団
- 環境を大切にする活動 13ヶ団
- 敬老の日に沿った活動や一般招待 7ヶ団
- 団オリジナルプログラム 16ヶ団

